

～事業のご紹介～

耕作放棄地再生利用緊急対策交付金（国事業）

取組主体	黒石地域担い手育成総合支援協議会 (旧:黒石地域耕作放棄地対策協議会)	取組の きっかけ	耕作放棄地の解消、りんごの丸葉
取組年次	平成22年～平成25年	荒廃の程度	葎や低木の繁茂
地区名	上十川地区	解消内容	りんごの丸葉台密植栽培
解消面積	0.42ha(実証ほ場)		

取組の概要

当地区は中山間地域にあり、りんごを中心とした果樹農業により発展してきましたが、高齢化や後継者不足による生産農家の減少等により、近年では耕作放棄地が散見されるようになりました。平成22年度に耕作放棄地再生利用緊急対策交付金の活用により黒石地域担い手育成総合支援協議会(黒石地域耕作放棄地対策協議会)が事業主体となり、0.42haの荒廃農地を解消し、りんご丸葉台の苗木を購入しました。

定植作業、栽培管理は解消した農地の所有者である果樹農家へ委託し、平成26年度には、少量ではありますが、ようやく出荷することができました。

解消状況



実証ほ運営事業費

年度	事業費	主な作業内容
平成22年度	2,167,835円	実証ほ造成工事、苗木定植、圃場管理
平成23年度	400,200円	丸葉台密植栽培による早期多収の検証、圃場管理
平成24年度	331,179円	丸葉台密植栽培による早期多収の検証、圃場管理
平成25年度	374,681円	丸葉台密植栽培による早期多収の検証、圃場管理

検証結果

年度	収穫量	反収(10aあたり)	生育状況
平成22年度	0kg	0kg	苗木定植
平成23年度	0kg	0kg	60cm～70cm
平成24年度	0kg	0kg	1m～2m
平成25年度	0kg	0kg	2m～3m
平成26年度	340kg	80kg	3m～4m
平成27年度	980kg	230kg	3m～5m
平成28年度	2,020kg	480kg	3.5m～5m
平成29年度	1,980kg	470kg	3.5m～5m

- ・平成22年に苗木を定植し、23年・24年は実が小さすぎるなど出荷対象となりませんでした。平成25年は多少実は大くなりましたが、それでも出荷するほどの品質ではなく、定植から5年目の平成26年、ようやく出荷できる品質となり農協へ340kg出荷しました。
- ・平成29年産は1,980kg出荷となっており、ほぼ前年と同じ出荷量となっています。
- ・成木になるまで約10年を要することから、平成31年頃から安定した収穫量が見込まれます。